

令和5年度 ESGアクション21 環境活動レポート

活動期間 令和5年4月～令和6年3月



有限会社 アイキクリーン

作成日：令和6年6月25日

環境方針	制 定	H22.10.1	改 訂	H30.4.1	改 訂	
	改 訂	H23.6.1	改 訂		改 訂	

環 境 方 針

【 環 境 経 営 理 念 】

従来、私達の社会は大量生産・大量消費・大量廃棄が繰り返されてきました。現在、私達の生活をも脅かす地球温暖化をはじめとする地球規模の異常気象や環境問題が大変大きな問題となっております。

当社では環境問題や自然保護に対する意識を常に持ち、人間と環境が調和した持続可能な社会、限りある資源を無駄遣いしない循環型社会を構築する一端を担う責任を自覚し、リサイクルを通じお客様や地域へ貢献することができる企業を目指していきます。

【 経 営 指 針 】

1. 廃棄物のリサイクルを通じ資源再利用・循環型社会の実現を目指す。
2. 法令を厳守し自然環境と資源の保護に努めなければならない。
3. 適正な価格を維持するため常にリサイクル技術を磨かなければならない。
4. 当社の取引先には、適正な利益をあげる協力を惜しまない。
5. 働く環境は清潔で、整理整頓されかつ安全作業を心がけなければならない。
6. 社員一人一人が物心ともに幸福にならなければならない。
7. 我々が地域社会に貢献することをたえず考え実行しなければならない。

【 行 動 方 針 】

- 1) 受託した廃棄物の徹底分別を行い、3R『リデュース（減量化）・リユース（再利用）・リサイクル（再資源化）』の向上に努めます。
- 2) 収集運搬車輛等の燃料使用量の削減に努めます。
- 3) 事業活動に伴う電力使用量の削減に努めます。
- 4) 水資源の節水に努めます。
- 5) 事業用品を主体とするグリーン購入の推進に取り組みます。
- 6) 全従業員に環境に関する教育を行い環境保全の意識を高めます。

有限会社 アイキクリーン
代表取締役 相馬知也

事業の概要

【事業所及び代表者】

有限会社 アイキクリーン
取締役 相馬 知也

【所在地】

事務所・中間処分場
〒415-0014 静岡県下田市須崎1779番地の1

【登録活動】

産業廃棄物収集運搬、中間処分業

【環境管理責任者・事務局】

環境管理責任者 望月 伸一
事務局 望月 伸一
事務所 TEL：0558-25-2552
FAX：0558-25-2553
E-mail：a-clean@clock.ocn.ne.jp

【設立】 平成16年7月26日

【資本金】 500万円

【事業年度】 4月1日～翌年3月31日

【活動規模】

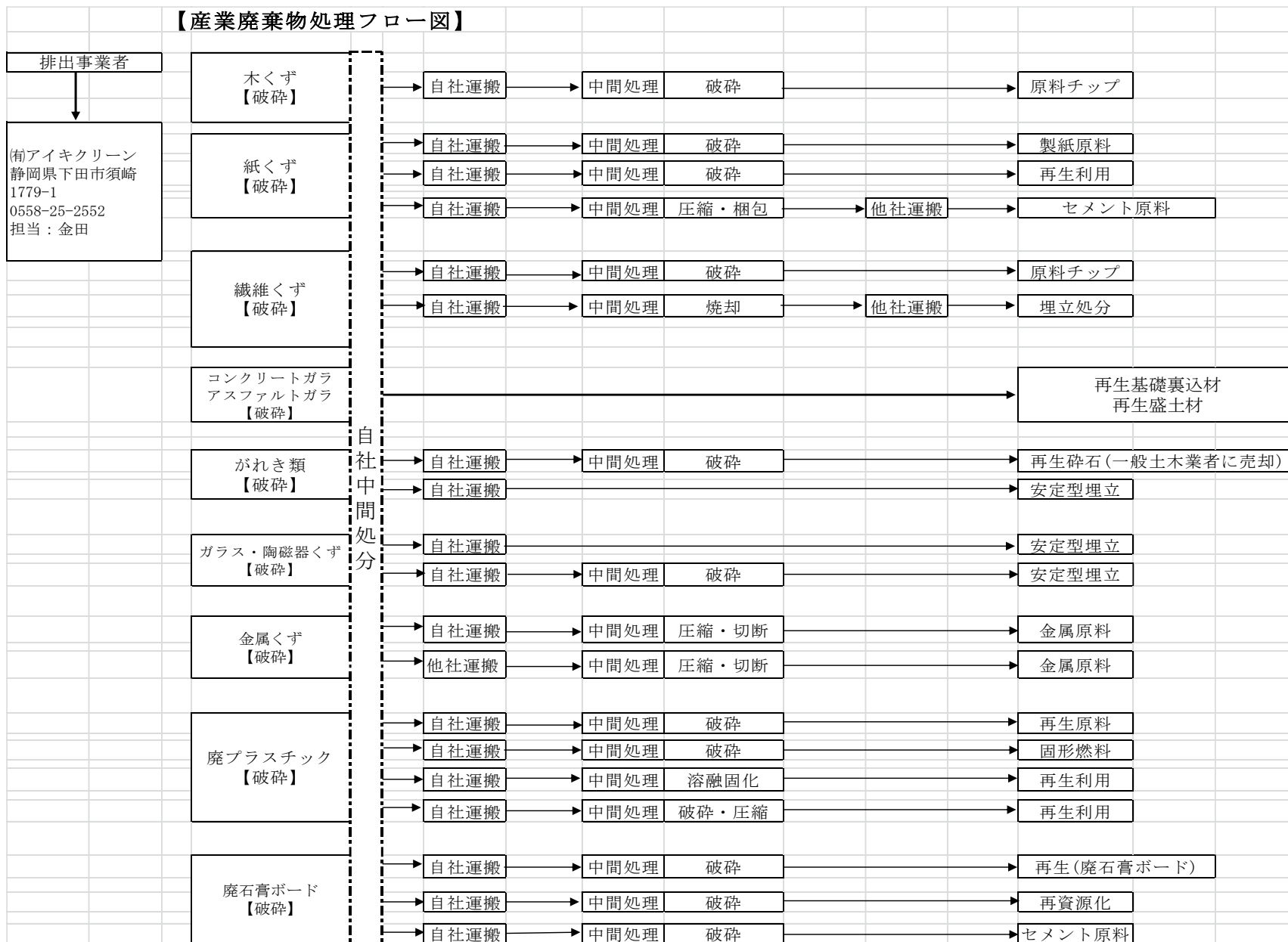
活動規模		単位	令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度
処理量		t	9154	8173	9261	8579
売上高		百万円	74	78	79	81
従業員		人	6	6	6	6
処理実績	収集運搬	t	1589	1361	1522	1069
	中間処理	t	9154	8173	9261	8579
	うち再資源化等量	t	6750	7204	8069	7751
	リサイクル率	%	73.7	88.1	87.1	90.0

産業廃棄物収集運搬業 (積み替え及び保管を除く)	—
許可番号	静岡県知事許可 第 02201113498 号
許可年月日	平成 21 年 8 月 31 日
有効年月日	令和 6 年 8 月 30 日
収集運搬許可品目	廃プラスチック、金属くず、がれき類、紙くず 木くず、ガラス・コンクリートくず及び陶磁器くず 繊維くず
収集運搬許可車輛	2 t ユニック [積載量] 2000kg 1 台 4 t アームロール [積載量] 3900kg 1 台 10 t アームロール [積載量] 11400kg 1 台
産業廃棄物処分業 〔中間処理、破碎〕	—
許可番号	静岡県知事許可 第 02221113498 号
許可年月日	平成 23 年 3 月 31 日
有効年月日	令和 8 年 3 月 30 日
許可品目	廃プラスチック、金属くず、がれき類、紙くず 木くず、ガラス・コンクリートくず及び陶磁器くず 繊維くず
所属団体等	静岡県産業廃棄物協会 伊豆支部会員 静岡県災害廃棄物処理復興支援業者登録

【産業廃棄物処理施設の能力】

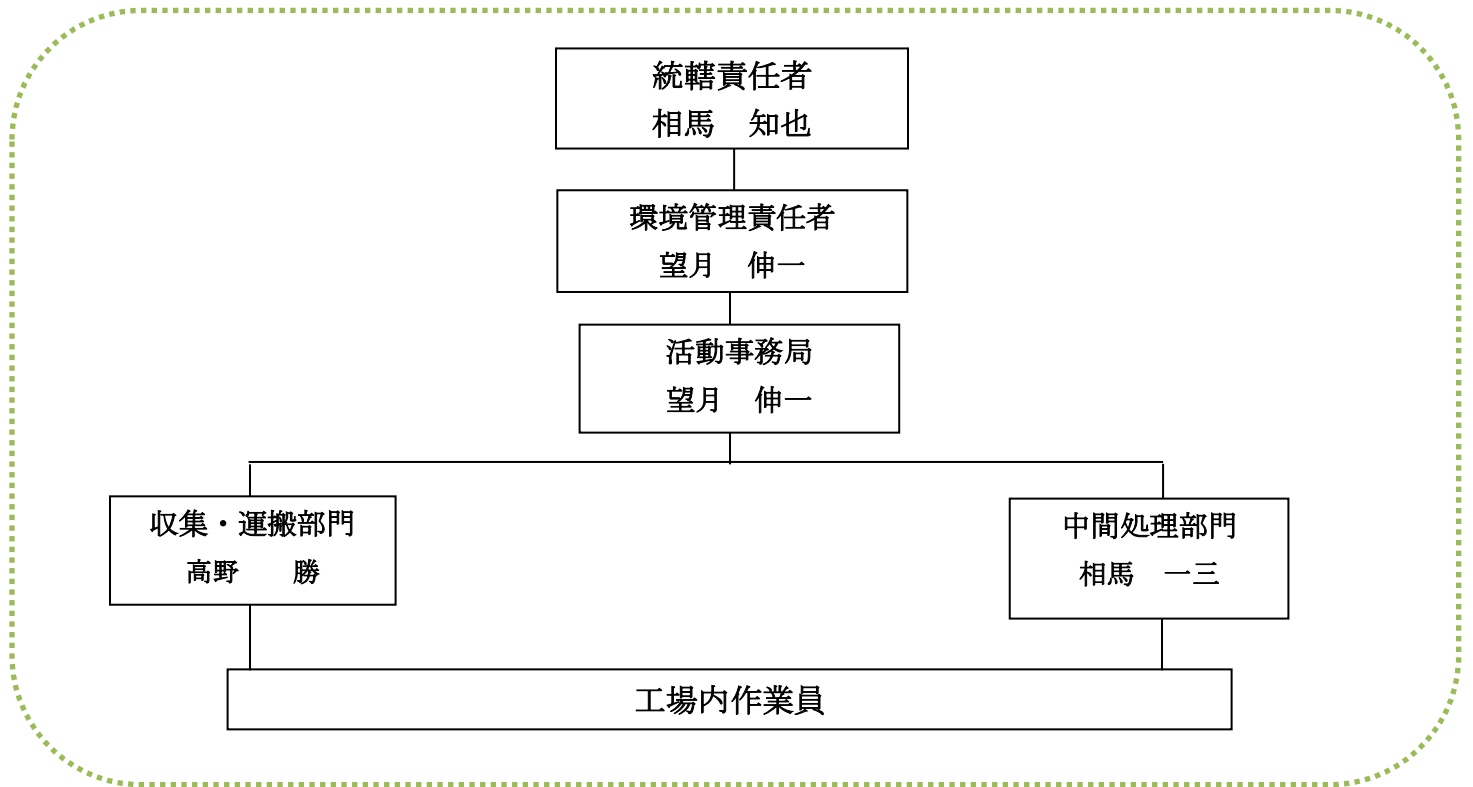
施設	名称	仕 様	能 力
破 砕 設 備	二 軸 破 砕 機	メーカー : (株)不二精機製造所 型 式 : FC-22/100 方 式 : 二軸せん断式 電動機出力 : (1軸)7.5kw 計 15kw カッター回転数 : 17/20rpm	廃プラスチック 4.4 t/日(8H) 金属くず 4.97 t/日(8H) ガラス・コンクリートくず及び陶 磁器くず 4.72 t/日(8H) がれき類 4.56 t/日(8H) 紙くず 2.99 t/日(8H) 繊維くず 1.91 t/日(8H)
	モ ロ オ カ 自 走 式	メーカー : (株)諸岡 型 式 : MC-1500 出力/回転数 : 160ps/2,200rpm カッター回転数 : 0/700rpm/min	木くず 4.24 t/日(8H)
	リ サ イ ク ル プ ラ ン ト コ ン ク リ ー ト	メーカー : ラサ工業(株) 型 式 : 24×15-B ストローク数 : 250rpm 電動機動 : 37kw×6 p	がれき類 (コンクリートガラ・アスファルト ガラ) 256 t/日(8H)

【産業廃棄物処理フロー図】



制 定	H23. 6. 1	改 訂	H24. 2. 1	改 訂	H26. 1. 6
改 訂	H23. 8. 1	改 訂	H25. 3. 1	改 訂	H30. 4. 1

組 織 図



担 当 者	役割、責任、権利
統轄責任者 相馬 知也	環境管理責任者を任命し、環境管理責任者から報告を受け全体の見直しを行う。環境経営システムに必要な、人・設備・費用・時間等の取り組みに対する原資を用意する。 経営における課題とチャンスを明確化する。
環境管理責任者 望月 伸一	環境管理システムを構築し、実施・運用管理する。 代表者へ結果報告をする。
活動事務局 望月 伸一	環境活動レポートの作成。 エコアクション21における環境目標及び活動計画案等文書の作成。
中間処理部門 相馬 一三	環境方針・環境への取り組みの重要性を理解し、3Rの向上に努める。
収集・運搬部門 高野 勝	環境関連法規を順守し、全車両の安全運転・エコドライブの推進をはかる。
工場内作業員	環境方針を確認・理解する。 環境活動を通して取り組みの重要性を理解し、場内使用の車輛等CO2削減に努める。

環境中期目標

項目	単位	平成 28 年(基準値)	令和 6 年度	令和 7 年度	令和 8 年度
二酸化炭素総排出量	Kg - CO2	127954	-8%	-9%	-9%
処理量 1 t 当りの 二酸化炭素排出量	Kg - CO2/ t	19.6	-8%	-9%	-9%
電力消費量	kwh	16238	-8%	-9%	-9%
ガソリン使用量	ℓ	1656	-8%	-9%	-9%
灯油使用量	ℓ	186	-8%	-9%	-9%
A 重油使用量	ℓ	21239	-8%	-9%	-9%
軽油使用量	ℓ	22809	-8%	-9%	-9%
総排水量	m3	251	-8%	-9%	-9%
廃棄物排出量	kg	27	数量管理	数量管理	数量管理
廃棄物リサイクル率	%	93	85%以上を維持	85%以上を維持	85%以上を維持
グリーン購入 (文具)	円	71156 (79%)	環境配慮品 優先購入	環境配慮品 優先購入	環境配慮品 優先購入

環境目標の実績

項 目	単 位	基準年実績 (H28年)	令和5年度 (R5.4~R6.3)			評価
			目標値(-6%)	実績値	目標値比	
二酸化炭素総排出量	kg-CO2	127954	120276	81583	67%	○
処理量1t当りの 二酸化炭素排出量	kg-CO2/t	19.6	18.4	9.5	51%	○
購入電力	kwh	16238	15263	17894	117%	×
灯油	ℓ	186	174	292	167%	×
ガソリン	ℓ	1656	1556	1229	78%	○
A重油	ℓ	21239	19964	16197	81%	○
軽油	ℓ	22809	21440	9933	46%	○
総排水量	m3	251	235	320	136%	×
廃棄物排出量	t	27	数量管理	数量管理	—	○
廃棄物リサイクル率 (自社中間処理)	%	93%	85%以上	87	102%	○
グリーン購入	円	71156 (79%)	環境配慮品 を優先購入	環境配慮品 を優先購入	—	○

電力換算係数：東京電力 H28：0.475 kg-co2 使用

環境目標に対する実績の評価

下記3項目の目標未達があり、夫々是正処置としては下記の通りだった。
尚、主要な二酸化炭素排出量は、作業効率化を図った為、目標を大きく達成できた。

目標の未達成項目	未達成の原因	今後の処置
購入電力	継続してクラッシャー稼働を増やし作業効率を図ったので、使用量が増加し、目標未達になった。	省エネ活動継続して状況を監視する。
総排水量	〃	処理の効率化を図った結果なので、今後も可能な範囲で節水活動を継続する。
灯油	主に、冬季の暖房用なので、使用量が増加したと思われる。	気候の影響もあるので、やむを得ない。可能な範囲で省エネ活動を継続する。

環境活動計画

場 内	事 務 所	地域貢献、その他
<p>二酸化炭素排出量の削減 エコドライブの周知、実施 *アイドリングストップ *急発進・急加速の禁止 *エアコンは控えめに *タイヤの空気圧をチェック *不要な荷物は降ろす *コンテナ BOX 等計画的なルート収集 *低排気車輛の購入を検討 *始業時重機、車両の点検を徹底</p> <p><u>排水量の削減</u> *洗車時の節水 *水漏れ点検の実施 *雨水の利用の検討</p> <p>廃棄物リサイクル率の向上 *排出事業者に対して廃棄物の品目についての分別、搬出を指導する *コンテナ BOX の品目ごとの設置の営業 *手作業によるより細やかな分別選別作業を行う</p>	<p>電力消費の抑制 *節電ステッカー貼付け *エアコン設定温度を夏 27℃、冬 23℃に設定 *不用な照明、休憩時間の消灯 *スイッチオフによる待機電力の削減 *エアコンフィルターの定期清掃 *LED 照明の導入 *クールビズ・ウォームビズの推奨</p> <p><u>排水量の削減</u> *節水ポスターの貼付け *事務所内水道に節水こまの取付け</p> <p><u>廃棄物排出量の削減</u> *コピー用紙の両面使用 *ミスコピーの削減 *業務連絡は電子メール、PDF 化等ペーパーレスに努める *社員の名刺は再生紙使用の物にする *ダンボール、使用済み封筒等紙類の再利用 *事務所消耗品は詰め替え商品を導入 *電子マニフェストを極力活用する *事務所内の廃棄物の分別</p> <p><u>グリーン購入の推奨</u> *文房具等はグリーン商品、環境ラベル商品の実績を把握し購入を検討する</p>	<p>*地域ボランティア活動等への参加の検討 *会社周辺等の道路清掃 *場内整備の徹底</p>

活動計画

環境活動計画		4月	6月	8月	10月	12月	2月
		5月	7月	9月	11月	1月	3月
場 内	<u>二酸化炭素排出量の削減、エコドライブ</u> *急発進・急加速の禁止 *アイドリングストップ *タイヤの空気圧をチェック *不要な荷物を降ろす *コンテナ BOX 等計画的なルート収集 *低排気車輛の購入を検討 *始業時重機、車両の点検を徹底						→
	*エアコンは控えめに		→			→	→
	<u>排水量の削減</u> *洗車時の節水 *水漏れ点検の実施 *雨水利用の検討						→
	<u>廃棄物リサイクル率の向上</u> *排出事業者に対して廃棄物の品目についての分別、搬出を指導する *コンテナ BOX の品目ごとの設置の営業 *手作業によるより細やかな分別選別作業を行う						→
事 務 所	<u>電力消費の抑制</u> *節電ステッカーの貼付け *不用な照明、休憩時間の消灯 *スイッチオフによる待機電力の削減 *エアコンフィルターの定期清掃 *LED 照明の導入						→
	*エアコン設定温度を夏 27℃、冬 23℃に設定 *クールビズ・ウォームビズの推奨		→			→	→
	<u>排水量の削減</u> *節水ポスターの貼付け *節水こまの取り付け						→
	<u>グリーン購入の推奨</u> *文房具等グリーン商品、環境ラベル商品を優先的に購入を検討する						→

環境活動計画		4月	6月	8月	10月	12月	2月
		5月	7月	9月	11月	1月	3月
事務所	廃棄物排出量の削減 *コピー用紙の両面使用 *ステッカーを貼りミスコピーの削減 *業務連絡は電子メール、PDF化等ペーパーレスに努める *名刺は再生紙使用の物にする *ダンボール、使用済み封筒等紙類の再利用 *事務所消耗品は詰替え商品を導入 *電子マニフェストの活用 *事務所内の廃棄物の分別						
							▶
全社員	地域貢献、その他 *地域ボランティア活動等への参加 *会社周辺等の道路清掃 *場内整備の徹底						
							▶

環境活動計画の取組結果とその評価、次年度の取組内容

取組内容 (令和5年度)		評 価		令和6年度取組内容
場 内	二酸化炭素排出量の削減	○	目標値をクリアー	全社員が意識を持って目標達成に取り組む。
	エコドライブの周知、実施	○	ステッカー貼付けにより徹底	継続
	・アイドリングストップ	○	車輛点検の徹底	〃
	・急発進・急加速の禁止	○	〃	〃
	・エアコンは控えめに	○	〃	〃
	・タイヤの空気圧チェック	○	〃	〃
	・不要な荷物を降ろす	○	〃	〃
	・低排気車輛の購入を検討	○	購入済み	〃
	・コンテナ BOX 等計画的なルート収集	○	徹底できた	〃
	・始業時の重機、車両の点検	○	〃	〃
	*排水量の削減	—		〃
	・洗車時の節水	○	手元の on/off ノズルで削減	〃
	・水漏れ点検の実施	○	徹底できた	〃
	*廃棄物リサイクル率の向上	—		〃
	・排出事業者に対して廃棄物の品目についての分別、搬出を指導する	○	実行できた	継続指導を行う
	・コンテナ BOX の品目ごとの設置の営業	○	実行できた	継続指導を行う
・手作業によるより細やかな分別選別作業を行う	○	実行できた	継続	
事 務 所	*電力消費の抑制	—		〃
	・節電ステッカーの貼付け	○	徹底できた	〃
	・事務所内エアコン設定温度を夏27℃・冬23℃に設定	○	〃	〃
	・不用な照明の消灯	○	〃	〃
	・スイッチオフによる待機電力の削減	○	〃	〃
	・エアコンフィルターの定期清掃	○	〃	〃

取組内容 (令和5年度)		評 価		令和6年度取組内容
事 務 所	・LED照明の導入	○	約70%交換済	継続
	・クールビズ・ウォームビズの推奨	○	6月からはクールビズ、12月からはウォームビズを実施	継続
	*排水量の削減	○	徹底できた	〃
	・節水ポスターの貼付け	○	目に付くところに貼りつける	〃
	・事務所内水道に節水こまの取付	○	実施できた	〃
	*廃棄物排出量の削減	—		全員で意識を持って取り組む
	・コピー用紙の両面使用	○	徹底できた	継続
	・ミスコピーの削減	○	〃	〃
	・事務所消耗品は詰替え商品を導入	○	〃	〃
	・業務連絡等電子メール、PDF化を活用しペーパーレスに努める	○	〃	〃
	・ダンボール、使用済み封筒等紙類の再利用	○	〃	〃
	・電子マニフェストの活用	○	導入業者とは利用	〃
	・事務所内の廃棄物の分別	○	紙くず、プラスチック、等の分別、インクカートリッジは郵便局等のリサイクルボックスに出した	〃
	*グリーン購入の推奨	○	徹底できた	〃
	・社員の名刺は再生紙使用のものにする	○	〃	〃
	・文具等の購入に於いてグリーン購入を検討	○	〃	〃
全 社 員	*地域貢献、その他	○	活動できた	社員全体で継続検討
	・地域ボランティア活動等への参加の検討	○	十分ではないが活動した。	〃
	・会社周辺等の道路清掃	○	定期的実施	継続

環境関連法規等の遵守状況

評価者：環境管理責任者 評価日：令和6年4月15日

適用対象	法規・条例・規制	適用内容または規制基準値	備 考	遵守状況
産業廃棄物 収集運搬業 者	産業廃棄物の処理 及び清掃に関 する法律	収集運搬業、処分業許可の更 新・変更届出	期間満了日・変更事項の有無	○
		廃棄物排出事業所及び最終 処分場との委託契約	契約書締結	○
		マニフェストの管理	D 票、E 票の返却	○
産業廃棄物 処分業者		マニフェストの期間内返却	90 日以内または 180 日以内	○
		マニフェストの保管	5 年間	○
		帳簿記載	記載事項に不備なし	○
		静岡県産業廃棄物の適正な 処理に関する条例	実地確認 10 条 実績報告書の提出 17 条	○
		投棄禁止	不法投棄を行わない	○
		廃棄物の悪臭・飛散防止	車輻荷台にシートを被せる 等	○
	騒音・振動基本 法	特定作業における基準の順 守	基準の順守	○
	運搬車両	道路交通法	法規制の順守 車輻点検の実施	基準の順守 ○
事業者全般	環境基本法	一般的な自主努力	エコアクション 21 への積極 的な取組	○
	地球温暖化対策 推進法	温室効果ガス抑制措置 国及び地方公共団体の施策へ の協力		
		循環型社会形成 推進基本法	3R のへの努力	廃棄物等の内、有用な物の循 環的な利用を促進
	グリーン購入法	環境物品の購入	事業所の一般的責務	○
	フロン排出抑制法	点検及び廃棄時指定業者処理	重機簡易点検	○

1. 環境関連法規等の遵守状況：

環境関連法規の遵守状況を確認した結果、違反はありませんでした。

2. 訴訟の有無：

関係機関からの指摘、利害関係者からの訴訟もありませんでした。

環境上の緊急事態への準備と対応

環境上の緊急事態は次のことが想定される。

1. 破砕機からの発火

異物の混入 破砕前の展開検査を実施する

発火 直ちに電動機を停止し、消火にあたる。

連絡網により全員に連絡

消防署、破砕機メーカーへの連絡

下田消防署電話番号 0558-22-1804

破砕機メーカー がれき用(ラサ工業(株)) . . . 03-3278-3851

廃プラ、その他用(株不二精機製造所) . . . 0559-88-1001

木くず用(株諸岡) 0297-66-2111

2. 周囲の枯れ草等の火事 (十分に注意して作業を行っているが、周囲の枯れ草等に火がついた場合)

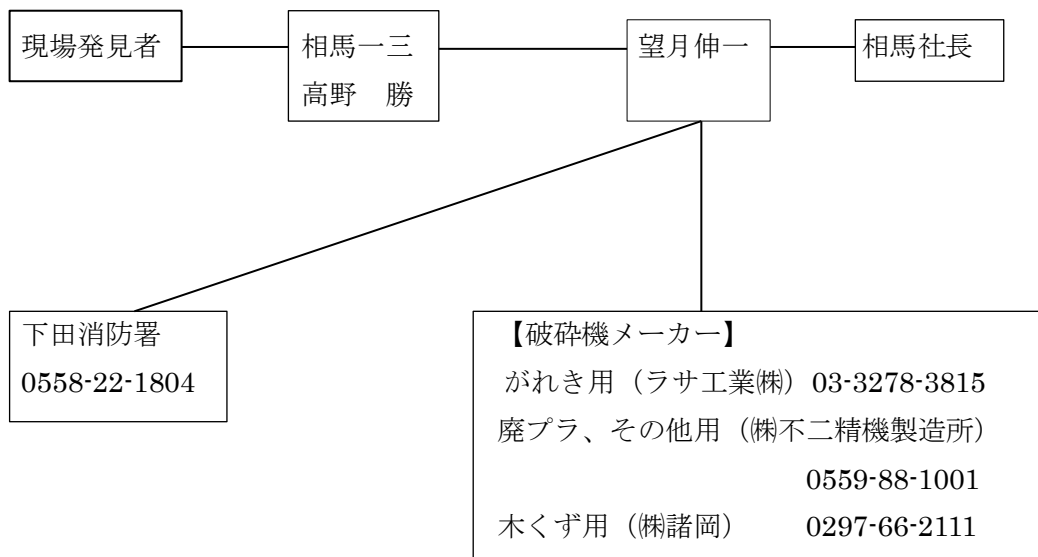
貯水タンクを用意する (タンクに雨水を貯めることを検討中)

消防署への連絡 下田消防署電話番号 0558-22-1804

連絡網により全員に連絡

連絡網

火災発生



*社長へ電話連絡が不可能な場合はメールを活用する

環境上の緊急事態の施行及び訓練結果

実施責任者：環境管理責任者

取り組み期間中に緊急事態の試行及び訓練を実施しました。

実施項目	消火訓練
実施日	R6.4.5
参加者	高野、今井、小川、山口、望月
実施内容	消火器の使い方の確認、緊急連絡網の再確認を行いました。
実施結果	定めた対応策に問題なく、改訂の必要はありませんでした。



代表者による全体評価と見直しの結果

今年度は事前にコンクリートガラの小割などを丁寧に行いクラッシャー稼働時に作業員が状況確認をしっかりと行うことで目標値にはおよばなかったものの上水、購入電力の数字を前年より下げることができました。

上記の例からもエコアクション 21 への取り組みの意識は高まっていると感じていますので今後も継続していきます。環境方針、経営計画、実施体制については継続問題ないとして今後も継続していきたいと思えます。

目標については現状に合わせ見直しする事。

産業廃棄物処分業界の情報収集は常時行い、共有し代表取締役今後の行動にどのように反映すべきかを社員一同と考えながら改善してより良い方向に進めていきたいと思えます。

令和 6 年 5 月 23 日
有限会社 アイキクリーン
代表取締役 相馬 知也

次年度以降中期目標

項目	単位	令和5年(基準値)	令和6年度	令和7年度	令和8年度
二酸化炭素総排出量	Kg - CO2	81583	-0.5%	-1%	-1.5%
処理量1t当りの二酸化炭素排出量	Kg - CO2/ t	9.5	-0.5%	-1%	-1.5%
電力消費量	kwh	17894	-0.5%	-1%	-1.5%
ガソリン使用量	ℓ	1229	-0.5%	-1%	-1.5
灯油使用量	ℓ	292	実績把握	実績把握	実績把握
A重油使用量	ℓ	16197	-0.5%	-1%	-1.5%
軽油使用量	ℓ	9933	-0.5%	-1%	-1.5%
総排水量	m3	320	実績把握	実績把握	実績把握
一般廃棄物排出量	kg	52	実績把握	実績把握	実績把握
廃棄物リサイクル率	%	87	85%以上を維持	85%以上を維持	85%以上を維持

*灯油使用量については冬場暖房用と使用量が少なく実績把握のみとする。

*水使用量については粉塵対策の散水用として使用しているため実績把握のみ。

*一般廃棄物は使用量が少なく実績把握のみとする。